

事業者取組計画書

平成30年7月28日

鳥取県知事 平井 伸治 様

届出者 住所 鳥取県日野郡江府町大字御机字笠良原1177番

氏名 サントリープロダクツ株式会社  
天然水奥大山ブナの森工場  
工場長 吉岡 淳

鳥取県地球温暖化対策条例第8条第1項（第8条第4項、第9条第1項、第9条第3項）の規定により次のとおり提出します。

住所（主たる事業所の所在地）	鳥取県日野郡江府町大字御机字笠良原1177番				
氏名（名称及び代表者の氏名）	サントリープロダクツ株式会社 天然水奥大山ブナの森工場 工場長 吉岡 淳				
主たる業種	10 飲料・たばこ・飼料製造業				
該当する事業者要件	<input checked="" type="checkbox"/> 鳥取県地球温暖化対策条例施行規則第4条第1号に該当する特定事業者 <input type="checkbox"/> 鳥取県地球温暖化対策条例施行規則第4条第2号に該当する特定事業者 <input type="checkbox"/> 鳥取県地球温暖化対策条例施行規則第4条第3号に該当する特定事業者 <input type="checkbox"/> 特定事業者以外の事業者				
計画期間	平成30年4月 ～ 平成32年3月				
温室効果ガスの排出量等	排出区分	基準年度（実績） （平成29）年度 （二酸化炭素換算）	目標年度（計画） （平成32）年度 （二酸化炭素換算）	増減率	
	排出量（1）	18,354 t	14,383 t	△ 21.6 %	
	目標設定の考え方	平成29年度を基準とした時、中期計画では平成32年度にエネルギー原単位を3.19%削減目標としている。また、平成31年以降、電力会社変更により電気のCO2排出係数が下がるため、CO2換算では2割程度の削減となった。			
原単位当たりの温室効果ガス排出量等	用途区分	原単位の指標	基準年度（実績）	目標年度（計画）	増減率
		二酸化炭素換算	59.9 kg/KL	58.0 kg/KL	△ 3.2 %
		二酸化炭素換算			%
		二酸化炭素換算			%
	原単位の目標設定の考え方	平成29年度を基準とした時、中期計画では平成32年度にエネルギー原単位を3.19%削減目標としている。			
寄与的取組	取組区分	目標年度（計画）			
		実数値	二酸化炭素換算の削減量		
	再生可能エネルギーの利用による電力又は熱の供給	(売電量)	kWh	t	
		(熱供給量)	GJ	t	
	再生可能エネルギーの利用による二酸化炭素の排出削減の量等を表すものの購入	(購入量)		t	
	森林保全による二酸化炭素の吸収量を表すものの購入	-	-	t	
	電気、ガスその他のエネルギーの使用の合理化による二酸化炭素の排出削減の量等を表すものの購入	(購入量)		t	
削減量等合計（2）			0.0 t		

差引排出量 (1) - (2)	基準年度 (実績)		目標年度 (計画)	増減率 (計画)
	18,353.5 t		14,382.9 t	△ 21.6 %
推進体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ISO14001に基くEMSを運用。</li> <li>・ 環境保全委員会を定期的 (1回/3ヶ月) に開催し、CO2原単位削減状況を確認。</li> <li>・ 省エネプロジェクト組織を平成25年3月にキックオフ、工場全体の活動について推進管理している。</li> </ul>			
年度ごとの具体的な取組及び措置の計画	年度	設備、対象、工程等	内容	
	平成28	高圧エアーコンプレッサー	エアーリサイクルにより使用量を削減。	
	平成29	UPS設備	更新による空調費・電力変換ロスの削減。	
地球温暖化対策に資する社会貢献活動	江府町御机の上流にある「とっとり共生の森」でヒノキ人工林の枝打ちを行い、森林保全活動を継続的に実施している。			
特記事項				

注1 該当する口には、レ印を記入してください。

2 本計画書における温室効果ガス排出量は地球温暖化対策の推進に関する法律第21条の2第3項に規定する「温室効果ガス算定排出量」の算定方法と同様の方法により算定した量をいいます。

3 本計画書は鳥取県内における事業活動について記載してください。

4 主たる業種には、統計法 (平成19年法律第53号) 第2条第9項に規定する統計基準として定める日本標準産業分類のうち中分類を記入してください。

5 「基準年度」とは計画期間の前年度を、「目標年度」とは計画期間の最終年度をいいます。

6 「原単位当たりの温室効果ガス排出量等」の「用途区分」には、〇〇工場、事務所などの用途を記入してください。「原単位の指標」には、分子の「二酸化炭素換算」の下に分母となる指標 (生産数量、延べ床面積、走行距離等) を記入してください。

7 「特記事項」には、平成2年度 (1990年度) を基準とした排出量の対比や省エネ製品開発など他者の温室効果ガス排出削減への貢献、グリーン調達を採用などを記入してください。